

神奈川畜産情報

発行所
神奈川県畜産会
横浜市磯子区西町14-3
畜産センター内
電話 045(761)4191
FAX 045(759)1162
発行人
平本光男

(公社)中央畜産会からのお知らせ

畜産映像情報

「がんばる!畜産!8」

畜産現場の“今”を30分の番組にしました!
映像を各種研修会、セミナーにご活用ください!
配信の内容:総集編・思いが繋ぐ畜産の未来/明るい未来へ向け
て畜産DXの取り組み/乳用牛改良の取り組み/地域
ぐるみで畜産飼料生産!ほか

スマートフォンからはこちら
パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産

(公社)中央畜産会 経営支援部(情報) TEL03-6206-0846

隔月1回(1日)発行
〔神奈川畜産情報(平成18年1月号以降)はホームページでもご覧になれます〕

神奈川県畜産会のホームページ
「かながわ畜産ひろば」(<http://kanagawa.lin.gr.jp/index.htm>)

「牛乳の日イベントin花菜ガーデン」を開催しました

こんにちは!ぼく、牛乳だいすき「カナミルくん」です!令和7年6月1日(日)牛乳の日に、神奈川県立花と緑のふれあいセンター花菜ガーデンで、「牛乳の日イベントin花菜ガーデン」を開催しました!牛乳や酪農のことを見て・知って・味わって、もっと好きになってもらえるように企画したよ!

待ちに待った当日は晴天!ローズフェスティバル中の美しいバラと広い芝生のなか、なんと約2,700人の方が遊びにきてくれたよ!

「牛乳いろいろ飲み比べ」では、県産生乳100%認証商品を含む3種類の牛乳を飲み比べ!甘みやコクの違いにみんなびびくり!「模擬牛での乳しぼり体験」では、3月の投票で決まった模擬牛の名前を発表したよ。その名も「カナみい」。これからよろしくね!本物の酪農家の人が教えてくれた搾乳体験や、バケットミルカーでの吸引体験も大人気でした!

「牧草ロールにお絵描き」や、県内最大級の140馬力の「トラクターの展示」では、牛さんが毎日たべている牧草や、それを刈り取るトラクターの大きさを体感!トラクターの上からみる景色に思わずみんな笑顔でピース!

「農業高校コーナー」や「牛乳・酪

農クイズラリー」、「和太鼓の演奏」では、県立中央農業高校と県立相原高校のお兄さんお姉さんが、とっても楽しい企画をしてくれたよ!ぼくもあんな素敵なお兄さんになれるといいな。

他にも、「チャリティたまごくじ」や「フェイスペイント」、県産和紅茶と県産牛乳をたっぷりつけた「箱根山麓紅茶ミルクティーの販売」など、イベントが盛りだくさん!

残念ながら当日は体調(バツテリー)不良で休憩室から見学してただけ!次のイベントではきっと会おうね!牛乳や酪農って、ほんとに魅力がいっぱい。これからも、ぼくたちのこと、もっと知って、応援してくれたい!

【主催】かながわ酪農活性化対策委員会、神奈川県酪農協同組合連合会
【後援・協力】一般社団法人神奈川県畜産振興会、一般社団法人神奈川県畜産会養鶏部会、神奈川県立中央農業高等学校、神奈川県立相原高等学校、角笛会

【カナミルくん】かながわ県産生乳100%認証制度キャラクター



(代筆)神奈川県畜産課 古瀬



にぎわうイベント会場



牛乳いろいろ飲み比べ



酪農家(右)の解説



令和7年7月1日版

令和7年度 ～耕畜連携堆肥利用推進事業のご案内～

1 支援内容

県が畜産農家や農業協同組合等に対し、堆肥成分分析費・堆肥発芽試験（腐熟度検定）費・堆肥運搬費・堆肥散布機械等整備費の一部を補助（補助率1/3以内）します。

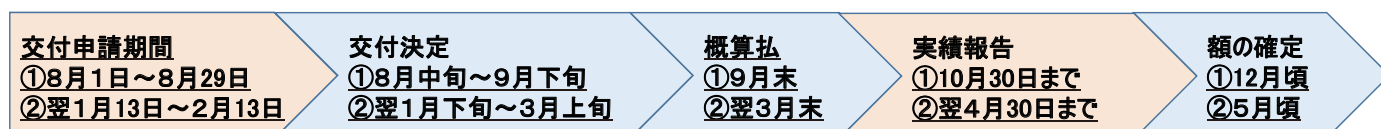
2 支援対象事業者

- ・県内に農場が所在する畜産農家（令和6年度の畜産物販売金額が50万円以上の方）で、令和8年度以降もその農場で畜産経営を継続し、畜産物を出荷する見込みがある方。
- ・県内に事業所が存在する農業協同組合や、畜産農家又は耕種農家等から構成される任意団体等で、令和8年度以降も当該事業所等で畜産又は農業に関する活動を継続する見込みがある方。
- ・堆肥運搬費支援事業は、**運搬費を（一社）神奈川県畜産会HPに掲載した事業者**

3 支援上限単価

・堆肥成分分析費※1	10,000円/回	※1：1事業者2回まで対象
・堆肥発芽試験費※2	5,000円/回	※2：1事業者2回まで対象
・堆肥運搬費※3	6,666円/回	※3：1事業者6回まで対象
・堆肥散布機械等整備費※4	2,666,666円/台	※4：複数台希望の場合、2台目は要望状況を考慮して可否を決定
		※※：予算上限に達した場合、申請を締め切ります
		※※※：堆肥散布機械等の納品時期が令和8年4月以降にならないようご注意ください

4 事業スケジュール（予定）



補助金対象期間：①4月1日～9月30日②10月1日～翌3月31日 **※交付申請日前に実施したものも含む**

5 交付申請に必要な書類（実績報告に必要な書類は別途お知らせします。）

- ① 耕畜連携堆肥利用推進事業補助金交付申請書（第1号様式）
- ② 補助金の振込先の通帳（表紙を1ページめくった中表紙の見開き）等の写し 他

6 申請書類提出期間・書類提出先

提出期間：①令和7年8月1日（金）～8月29日（金）

②令和8年1月13日（火）～2月13日（金）

提出先：（一社）神奈川県畜産会（〒235-0007 横浜市磯子区西町14-3）

電話：045-461-7191 FAX:045-759-1162 メールアドレス：mail@kanali.or.jp



事業問合せ先 神奈川県環境農政局農水産部畜産課畜産環境グループ / 電話 045-210-4514（直通）

冷却パネルを利用した授乳期母豚の暑熱対策

【取組の背景】

近年、省エネで人に優しい空調システムとして、**輻射式冷房**が注目され、オフィスや体育館、福祉施設などで採用が進んでいます。このシステムは、畜産分野での応用事例が少ないことから、今回、この輻射式冷房の仕組みを参考に、冷却パネルを作成し、授乳期母豚の暑熱対策としての効果を検証しました。

【輻射式冷房】

高い温度から低い温度に熱が移動する**輻射熱の性質を利用した冷房技術**です。天井・壁に冷水循環で冷やした金属製パネルを設置し、人などから発生する熱を吸収することで冷房効果を発揮します。モーターやフィルターを必要としないため、風が発生せず、有害物質の蓄積・排出がないことから、衛生的で動物にも優しい技術といえます。

【冷却パネル】

パネルは、アルミ板、銅管、断熱材を貼り合わせて作成（寸法：130 cm×70 cm）し、冷却水循環装置を接続して、地下水と同じ18℃の水を循環させて冷却しました（図1）。

パネルは、分娩柵の側面に設置し、**非接触で母豚やその周辺環境からの熱を吸収**して、冷却効果を発揮する仕様としました。

【試験方法】

冷却パネルを分娩豚房に設置（パネル区）し、分娩から離乳までの4週間、母豚の熱ストレスに対する生理反応や行動を調査し、慣行の豚房（対照区）と比較しました。

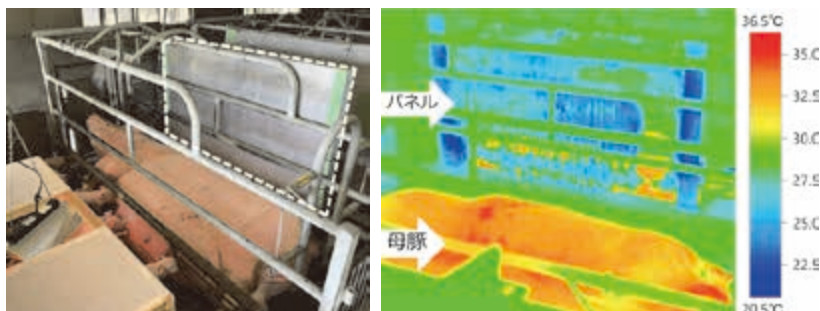


図1 パネル区の様子（破線部がパネル、熱画像では20℃～25℃を示す）

【試験結果】

母豚の生理反応や行動では、パネル区は、**体温・体表温度の上昇抑制**や**呼吸回数の上昇抑制**が認められたほか（図2、図3、図4）、**臥位（休息行動）の増加**や**飲水行動の減少**が認められ（図5）、**母豚の暑熱ストレスを軽減**する効果が確認されました。

平均値、*： $p<0.05$ †： $p<0.10$

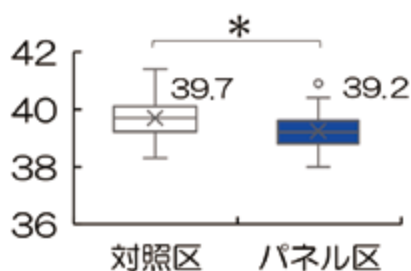


図2 体温 (°C)

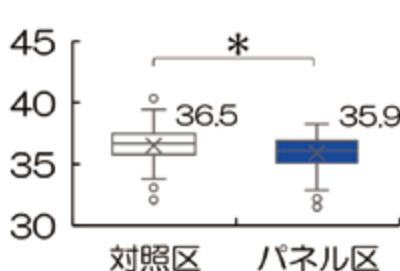


図3 体表温度 (°C)

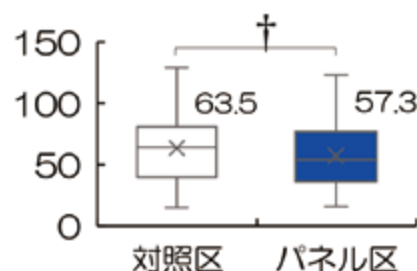


図4 呼吸回数 (回/分)

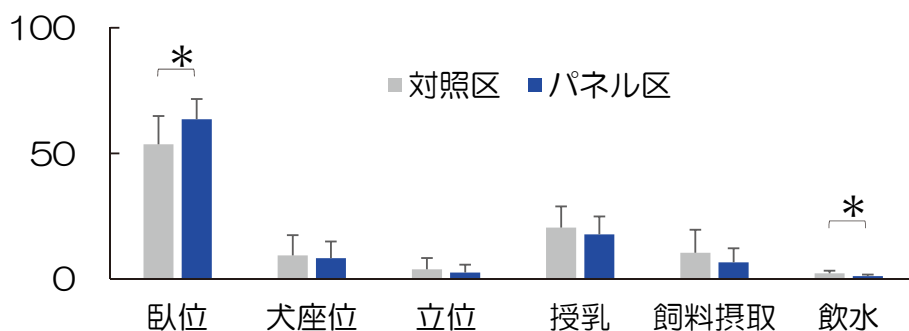


図5 母豚の各行動が占める割合 (%)

パネルの冷却に地下水を利用することにより、運用コストを抑えた新たな暑熱対策として活用できる可能性もあり、今後も、検討を継続していきたいと考えています。

担当：企画研究課 中原祐輔

牛マルキン

（肉用牛肥育経営安定交付金制度）
交付状況

令和七年一月～三月交付金確定単価と
四月交付金概算単価（肥育牛一頭当たり）

○肉専用種

一月 三五、七〇〇・三円
二月 交付なし
三月 一七、三一七・八円
四月 交付なし

○交雑種

一月 交付なし
二月 交付なし
三月 交付なし
四月 交付なし

○乳用種

一月 五三、二三八・六円
二月 三二、二三四・四円
三月 二一、四七八・五円
四月 一四、四七五・八円

無事戻しと在庫牛の再納付

四月から第三業対が始まりました。

現在、第二業対の積立金の残額を七月中には契約生産者の皆様に返還（無事戻し）できるよう準備を行っております。無事戻し金には、第二業対からの引継ぎ牛（在庫牛）の積立金も含まれているため、再納付が必要となります。通常の負担金請求とは別に在庫牛負担金請求のご案内をしますのでその際にはご協力よろしく
お願いいたします。（畜産会 倉迫）

令和六年度畜産経営の
分析結果と考察

【養豚部門】

●診断農家

令和六年度における養豚部門の経営診断指導対象は、畜産経営技術高度化促進事業対象三戸と、その他事業対象の中から総合的な分析に必要な数値が把握できた一戸を加えた、四事例について行った。成績は（表1・表2・表3）のとおりである。

●経営概況

四例とも繁殖・肥育一貫経営であり、すべて法人化された養豚専業経営である。

労働人員一人当たり母豚飼養頭数は全四例の平均で五四・六頭であった。

●繁殖成績

◆一腹当りの生存子豚、離乳子豚頭数と育成率

一分娩当たりの生存子豚頭数は平均一二・二頭（一一・七～一二・三頭）となり四農場全ての農場で一頭以上と良好な結果となった。多産系の血統を活用している農場も出始めており今後はより一層の産子数の増加が期待される。

一腹当り離乳子豚頭数の平均は一〇・八頭（一〇・三～一一・〇頭）となり昨年平均より〇・七頭の増となった。今期は生存産子数が昨年度より増

えたことと、平均育成率も八七・三％から八九・二％と改善がみられたことにより離乳頭数の増に繋がった。

離乳子豚数の改善策としては分娩施設の面の見直し、分娩・哺乳時のきめ細やかな管理や分割授乳

の導入、特に近年では

夏前からの気温上昇による暑熱による影響による親豚による哺乳子豚の圧死率上昇などがみられるため、分娩舎の哺乳中母豚への暑熱対策により哺乳子豚の損耗対策などの飼養管理改善による育成率の向上を目指して欲しい。

分娩回転数の平均は二・二七回転で、最低値二・二一（最高値二・三七）となり、分娩回転の低い農場では種付け

担当の変更による受胎率の低下等の技術的な改善を要する事例も見受けられた。分娩回転数に関しては二・三回転以上で安定出来るようにしたい。

●肥育成績

◆母豚一頭当り出荷頭数

は、一九・七～二一・八頭となり、平均は二一・二頭と前年平均より一・三頭の増となった。繁殖部門の生存産子数の増加、育成率の改善に伴う出荷頭数の増加がみられた事例もあるが、離乳後

表1：令和5年度 養豚経営技術分析数値（経営規模・繁殖・生産技術）

区分	項目	(R5) NO.1	(R5) NO.2	(R5) NO.3	(R5) NO.4	平均値	最大値	最小値
経営規模	経営形態	一貫経営	一貫経営	一貫経営	一貫経営			
	労働力1人当り飼養母豚数	64.1	38.1	67.8	48.3	54.6	67.8	38.1
	労働力1人当り飼養雄豚数	1.1	0.6	2.2	0.5	1.1	2.2	0.5
繁殖技術	1腹当総産子数	13.7	12.8	13.7	13.4	13.4	13.7	12.8
	1腹当生存子豚頭数（頭）	12.3	11.7	12.2	12.1	12.1	12.3	11.7
	1腹当離乳子豚頭数（頭）	11.0	10.3	11.0	10.9	10.8	11.0	10.3
	母豚1頭当生存子豚数（頭）	27.7	26.1	27.1	28.7	27.4	28.7	26.1
	母豚1頭当離乳子豚数（頭）	24.4	22.9	24.3	25.9	24.4	25.9	22.9
	1腹当哺乳子豚事故（頭）	1.2	1.3	1.3	1.2	1.3	1.3	1.2
	育成率（％）	89.7	87.9	89.8	89.5	89.2	89.8	87.9
	年間離乳日令（日）	—	27.6	26.4	22.5	25.5	27.6	22.5
	母豚更新率（％）	39.6	44.7	48.4	39.6	43.1	48.4	39.6
	分娩回転（回）	2.25	2.22	2.22	2.37	2.27	2.37	2.22
	1母豚当年間出荷頭数（頭）	19.7	20.2	22.8	21.5	21.1	22.8	19.7
	肉豚出荷1頭生体量（kg）	119.2	115.7	117.9	105.8	114.7	119.2	105.8
肥育技術	1頭当り枝肉量（kg）	78.1	77.7	77.8	71.0	76.2	78.1	71.0
	母豚1頭当出荷枝肉量（kg）	1,505.1	1,519.6	1,779.1	1,523.8	1,581.9	1,779.1	1,505.1
	農場（経営）飼料要求率	3.58	3.32	3.08	4.07	3.51	4.07	3.08
	枝肉経営飼料要求率	5.58	5.13	4.76	6.08	5.39	6.08	4.76
	事故率（離乳～出荷）（％）	11.2	7.9	3.9	15.7	9.7	15.7	3.9

事故率の上昇により思うように出荷頭数が伸びなかった事例もあった。また、一昨年に初夏～夏の交配がうまくいかず、秋口の分娩数が激減した結果、出荷頭数が大幅に低下したNo.2の事例は今年繁殖成績も改善され出荷頭数も大幅に改善した。

◆事故率

離乳から出荷までの事故率の平均は九・七％となり前年度平均より二・一％の上昇となった。本年度はNo.4の農場で平均事故率が高く、冬場の事故率の上昇が見られた。農場間較差は三・九％～一五・七％となった。

●収益

◆生産費

出荷肉豚一頭当りの生産費用及びその構成費目の内訳については表2に示すとおりである。

出荷肉豚一頭当りの四事例平均生産原価費用は三八、三七〇円となり前年度平均より二、〇五三円の上昇、一昨年度と比べると四、〇四六円の生産原価が上昇している。

◆母豚一頭当り生産物売上高

養豚一貫経営における収益性を検討するにあたり、母豚一頭当りの生産物売上高をみると表3にあるように、平均九三八、六四〇円（八九〇、一七三円～一、〇〇二、九四八円）で前年平均より四九、五八〇円の増収であった。出荷豚の枝肉1kg当り販売額は平均

五七八円となり、前年度平均と比べ七円の増額となった。

戸々で見るとNo.1は五七六円（前年五五七円）、No.2は五七八円（前年五九一元）、No.3は五六五円（前年五六五円）、No.4は五九一元（前年五八二円）と四農場のうち二農場が前年を上回る結果となった。各経営の決算期の関係による市場価格差もあり一概に比較出来ない部分もあるものの、銘柄豚生産割合や上物率等の違いも、価格差を大きくする要因の一部である。

肉豚出荷価格の年間変動は大きく、出荷のタイミングによって同質の肉豚でも大きな収益差が生じる。令和五年度の東京市場上物価格は平均六〇四円で前年度市場平均より八円上昇し、五月以降九月まで月平均で六〇〇円台の高値相場が続き年間を通して高い卸売価格で推移した。

◆飼料価格

生産費で最大構成比率を占める飼料費の1kg当り加重平均価格は表3に示すよう五七・〇円（四〇円～六六円）となった。それぞれの飼料単価については、年間全飼料購入金額を全購入量で除したもので、自家配合（原材料価格のみで労賃や施設等償却費をみていない）、をしているところ等があるため単純に比較はできない要素もあるが、購入単価以外にも飼料給与体系の検討が望まれる。また、食品未利用資源の

活用により、飼料単価を抑えている事例もある。

◆種豚一頭当り利益

一母豚当たりの飼料費（加重平均）は四五九、八九二円（前年比二・五％、前々年比二・六・八％）となり、一母豚当たりの生産原価では八〇〇、五八六円（前年比一・三％、前々年比二・二・二％）となった。収益に関しては、種雌豚一頭当りの当期利益の平均は七〇、九一四円となり前年平均と比べ一・三、七一二円の減額となった。これは、豚肉市場価格が非常に好調であった一方で、飼料費、資材費、人権費等の生産コストの上昇が考えられる。

●まとめ

近年は種豚の改良に伴い大型化、産子数の増加、出荷頭数の増加、枝肉重

表2：令和5年度 出荷肉豚1頭当り損益分析表

農場番号	(R5)NO.1	(R5)NO.2	(R5)NO.3	(R5)NO.4	平均値	最大値	最小値
期首棚卸高	4,341	5,620	5,109	11,828	6,725	11,828	4,341
(購入飼料費)	13,303	22,432	24,095	27,664	21,874	27,664	13,303
(衛生費)	3,229	2,652	3,000	2,268	2,787	3,229	2,268
(運搬費)	930	1,048	434	629	760	1,048	434
(諸材料費)	1,169	849	327	290	659	1,169	290
(修繕費)	1,486	657	2,055	1,150	1,337	2,055	657
(水道光熱費)	1,960	2,714	1,226	2,318	2,055	2,714	1,226
(減価償却費)	2,549	837	2,690	900	1,744	2,690	837
(人件費)	9,938	6,274	5,396	4,618	6,557	9,938	4,618
(飼養雑費)	271	150	587	228	309	587	150
生産費用	34,835	37,613	39,809	41,123	38,345	41,123	34,835
期末棚卸高	△4,268	△4,713	△5,053	△11,603	△6,409	△4,268	△11,603
当期生産原価	34,392	37,873	39,865	41,348	38,370	41,348	34,392
販売管理費計	15,209	7,226	8,364	9,881	10,170	15,209	7,226
事業外費用	4,051	237	271	3	1,141	4,051	3
費用合計	53,652	45,335	48,500	51,232	49,680	53,652	45,335
生産物売上高	49,799	45,495	43,929	41,958	45,295	49,799	41,958
(肉豚売上高)	44,935	44,881	43,929	41,958	43,926	44,935	41,958
事業外収益	12,884	4,805	4,729	9,682	8,025	12,884	4,729
総収益	62,683	50,300	48,657	51,639	53,320	62,683	48,657
当期利益金	9,031	4,965	157	407	3,640	9,031	157
所得額	10,692	5,449	2,253	4,704	5,775	10,692	2,253

量の増加がみられ一母豚当たりの売上高の増加に繋がった。その一方で一母豚当たりの生産原価も増加し、生産原価の半分を占める飼料費の購入価格が高騰した平成二〇年度では枝肉販売価格（枝肉相場）が平均で五〇〇円/kg以上あったものの、多くの経営が赤字

表3：令和5年度 農場別経済性分析表

項 目	農場No.	(R5) NO.1	(R5) NO.2	(R5) NO.3	(R5) NO.4	平均値	最大値	最小値
	単位							
1、売上高飼料費率	(%)	26.7	49.3	54.9	65.9	49.2	65.9	26.7
2、売上高人件費率	(%)	20.0	13.8	12.3	11.0	14.3	20.0	11.0
3、売上高衛生費率	(%)	6.5	5.8	6.8	5.4	6.1	6.8	5.4
4、売上高支払利息率	(%)	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0
5、売上高純利益率	(%)	18.1	10.9	0.4	1.0	7.6	18.1	0.4
6、売上高所得率	(%)	21.5	12.0	5.2	11.2	12.5	21.5	5.2
7、飼料 1kg 平均価格	(円)	40	58	66	64	57	66	40
8、生体 kg 当り販売額	(円)	377	387	373	396	383	396	373
9、生体 kg 当生産原価	(円)	289	324	338	388	335	388	289
10、枝肉 kg 当り販売額	(円)	576	578	565	591	578	591	565
11、枝肉 kg 当生産原価	(円)	441	488	512	582	506	582	441
12、出荷豚 1 頭販売額	(円)	44,935	44,881	43,929	41,958	43,926	44,935	41,958
13、出荷豚 1 頭生産原価	(円)	34,392	37,873	39,865	41,348	38,370	41,348	34,392
14、1 母豚当り売上高	(円)	960,663	890,173	1,002,948	900,774	938,640	1,002,948	890,173
15、1 母豚当生産原価	(円)	663,460	741,025	910,170	887,687	800,586	910,170	663,460
16、1 母豚当り純利益	(円)	174,208	97,144	3,575	8,727	70,914	174,208	3,575
17、1 母豚当り所得	(円)	206,265	106,608	51,445	100,989	116,327	206,265	51,445

決算となった。
令和五年度は過去三〇年間余り
一番の飼料費高騰下での決算となっ
たが豚肉の市場取引相場が高く推移
したこと、また事業外収益である補
てん金や補助金収入により赤字決算

を出した経営は無く、再生産可能な
利益は確保出来ている。しかし、原
材料資材やエネルギーの価格上昇は
続いており、修繕費や光熱費の上昇
も経営コストを押し上げているため、
生産性向上と生産コスト削減の検討
は引き続き行う必要がある。
(畜産会 橋本)

〔肉用牛部門〕

1. 肉用牛の情勢

昨年に引き続き、令和六
年もコロナ禍、ウクライナ
危機による食料供給網の混
乱、円安等による飼料や燃
油、化学肥料などの生産資
材価格の高騰が影響を及ぼ
した。

和牛枝肉の価格（東京食
肉市場加重平均価格）につ
いては、物価の上昇や消費
者の生活防衛意識の高まり
により、前年を下回る水準
で推移した。小売り向けの
引き合いが弱まっているた
め、前年を下回る傾向が続
いている。

肉用子牛価格は、令和六
年に入って下落しはじめ、
特に黒毛和種の価格は二年
ぶりに五〇万円を切り、一
頭当たり四九万八、九〇〇円

となった。この価格は肉用牛子牛生産
者補給金制度の保証基準価格
五六万四、〇〇〇円を下回り、その差額
が生産者補給金として交付された。（参
考：令和七年度には保証基準価格は
五七万七、四〇〇円に引き上げられた。）

配合飼料価格は、令和二年一〇月
からシカゴ相場の上昇に伴って上昇
し令和三年も引き続きシカゴ相場の
上昇を背景に、配合飼料価格の高騰
が続いている。令和四年七月には
一〇万円／tを超え、その後も高止
まりが続いている。

2. 本県肉用牛の動向

飼養戸数は、全国的に減少で推移
しており、本県の場合も平成四年の
三七〇戸をピークに小規模経営を中
心に減少してきた。令和六年二月一
日現在の肉用牛飼養状況は、農林統
計（農水省）によると、飼養戸数は
五一戸であった。飼養頭数は平成六
年の七、五九〇頭をピークに減少傾向
で推移し、令和六年は五、一三〇頭で
あった。一戸当たりの飼養頭数は、
平成五年まで二〇頭前後で推移して
いたが、以降徐々に増加し、令和六
年は一〇・六頭であった。

3. 診断農家成績の分析概要

令和六年度畜産経営技術高度化促
進事業実施にあたり肉用牛部門は、
経営診断に基づく改善指導三戸、生

産技術指導三戸、フォローアップ指
導二戸の計八戸に対して支援指導を
実施した。

このうち総合的に経営数値が把握
できた二事例に加えて、後継者等育
成支援等において技術成績が把握で
きた事例を加えた合計九事例につい
て分析した。

（1）診断農家の飼養規模

ア. 経営形態

二号と三号、四号について肥育部
門に繁殖和牛の一貫生産を取り入れ
ている。素牛価格の高騰が続く中、
繁殖部門に取り組み、受精卵移植、
ゲノミック評価を活用し自家産牛の
割合を順調に増加させている。

肥育部門においては、黒毛和種の
肥育専門経営が二号、七号、八号の
三事例であった。

黒毛和種と交雑種を飼養している
経営は残りの一号、三号、四号、五号、
六号、九号の六事例であった。この
うち六号は、県内の黒毛和種受精卵
子牛を導入することでもと畜費の低
減を図っている。

イ. 飼養規模

飼養規模については、肥育牛五〇
頭以上一〇〇頭未満が三事例、五〇
頭未満が二事例、一〇〇頭以上が四
事例であった。

（2）肥育牛の成績（表11）
導入・出荷成績の判明している九

事例について収益性に関わる項目（上
物率、枝肉重量、枝肉単価、出荷日齢、
素牛価格、飼料費、販売価格）を比
較する。

枝肉重量は、四七八kgから五七九
kgで平均五四八・一kgであった。前年
度五四九・八kgでほぼ横ばいで推移し
ている。

枝肉単価は、二、二〇九円/kgから
二、六〇五円/kg、平均二、四三四・五
円/kgで前年度平均二、四三三円/kg
と比較してほぼ横ばいであった。

出荷日齢は七七日から九八・三日
で、平均は八九〇日で前年度の
八九八・二日と比較してやや短縮で
あった。

素牛価格は四三二千元（自家産評
価額）から最高は子牛市場導入の
八一七千元で、大きく差があり、平
均六三二千元、前年度六一三千元を
上回っている。

飼料費は三三三千元から五三六千
円で、平均は四七三千元と前年度
四八四千元を若干下回った。

販売価格は一、一二八千円から一、
五一〇千円で、格差がみられ平均は
一、三四四千円で前年度一、三四四
円と比較して横ばいであった。

【販売価格から素牛価格を差引いた一
頭当り増加額】
五四四千円から八三九千円で大き

な格差が見られた。平均七一・一千元
で前年の七三〇千円を下回った。

肥育牛一頭当り増加額を飼養日数
で除した一日一頭当り増加額は
八四三元から一、三二三円と幅があり、
平均一、一〇二円で前年度平均一、
〇八九円を上回った。

肥育牛一当り増加額から飼料費を
差引いた肥育差益については、八千
円から三六四千元と幅があり、平均
二三八千円で前年平均二四六千円を
下回った。

肥育牛一頭当り肥育差益を飼養日
数で除した一日一頭当り肥育差益に
ついては、一四円から六九〇円と格
差があり、平均三六八円で前年度平
均三六八円と比較して横ばいであつ
た。

素牛導入県である神奈川県におい
て、長引く素牛価格高騰は経営を逼
迫させている。令和六年度結果（令
和五年度データ）は、肥育素畜費、
飼料費が大きく上昇している。販売
価格は横ばいで、増加額、肥育差益
ともに前年度を下回った。もと畜費
低減を図っているが飼料価格の上昇
や販売価格の頭打ちといった相場の
影響が大きい。

【増加額と肥育差益…図1～図4】
各項目について経営毎にプロットし、
特徴のみられた経営について解説する。

表-1 増加額と肥育差益（黒毛和種去勢）令和5年

農家番号	4等級以上	枝肉重量 (kg)	枝肉単価 (円)	出荷日齢 (日)	素牛価格 (円)	飼料費 (円)	販売価格 (円)	1頭当 増加額 (円)	1頭当 肥育差益 (円)	1日1頭当 増加額 (円)	1日1頭当 肥育差益 (円)
1	94.5	567.3	2,576	887.7	817,381	480,000	1,465,184	647,803	167,803	1,080	280
2	95.0	540.4	2,594	928.7	660,203	452,370	1,421,563	761,360	308,990	1,144	464
3	100.0	503.0	2,209	771.0	432,000	334,224	1,130,365	698,365	364,141	1,323	690
4	100.0	566.0	2,527	888.0	597,479	508,800	1,436,704	839,225	330,425	1,320	520
5	93.5	535.0	2,279	899.0	521,721	460,230	1,229,445	707,724	247,494	1,026	359
6	100.0	478.0	2,345	807.0	500,000	524,250	1,128,878	628,878	104,628	900	150
7	100.0	579.0	2,605	899.0	800,000	501,600	1,510,340	710,340	208,740	1,133	333
8	88.9	512.0	2,433	828.0	710,632	536,475	1,255,252	544,620	8,145	947	14
9	96.5	575.0	2,361	982.3	765,600	357,212	1,359,665	594,065	236,853	843	336
平均	96.0	548.1	2,434	890.0	632,459	473,174	1,344,135	711,675	238,502	1,102	368
全国平均		541.8	2,657		769,657	436,100	1,439,618	669,961	233,861	1,075	375
R4年度	96.7	549.8	2,433	898.2	613,627	484,223	1,344,331	730,704	246,481	1,089	368
R3年度	96.8	548.0	2,465	899.0	608,390	433,257	1,378,727	770,336	337,080	1,113	491
R2年度	96.6	544.7	2,274	894.8	683,268	341,829	1,246,455	563,187	221,358	827	327
R1年度	94.1	541.0	2,421	893.5	708,148	340,375	1,313,776	605,628	265,253	883	385
30年度	91.6	522.9	2,553	873.9	757,753	326,065	1,342,843	585,089	259,024	876	390
23年度	75.1	509.9	1,720	895.5	446,321	314,900	886,932	440,611	125,711	695	188
22年度	76.8	518.6	1,841	913.0	474,899	308,200	969,729	494,831	186,631	776	279
21年度	77.6	532.5	1,960	922.7	601,753	304,850	1,056,917	455,163	150,313	718	224
20年度	77.6	512.2	2,081	922.3	588,827	291,450	1,087,183	498,357	206,907	785	309
14年度		479.0	1,980	948.8	459,613	234,043	951,287	491,675	257,632	757	394
13年度		484.0	1,718	918.6	418,052	219,010		414,647	195,637	659	313

R4全国調査
新型コロナ
消費税増税
東日本大震災
口蹄疫
リーマンショック
BSE

図1 素牛価格と増加額

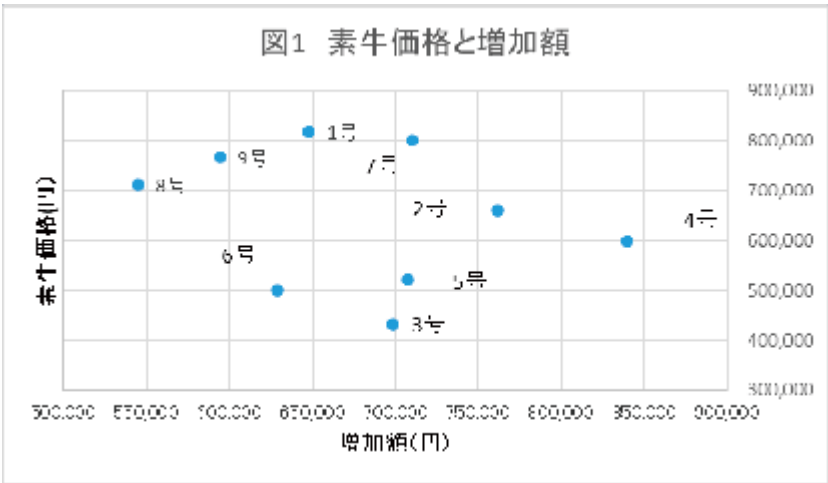


図2 飼料費と増加額

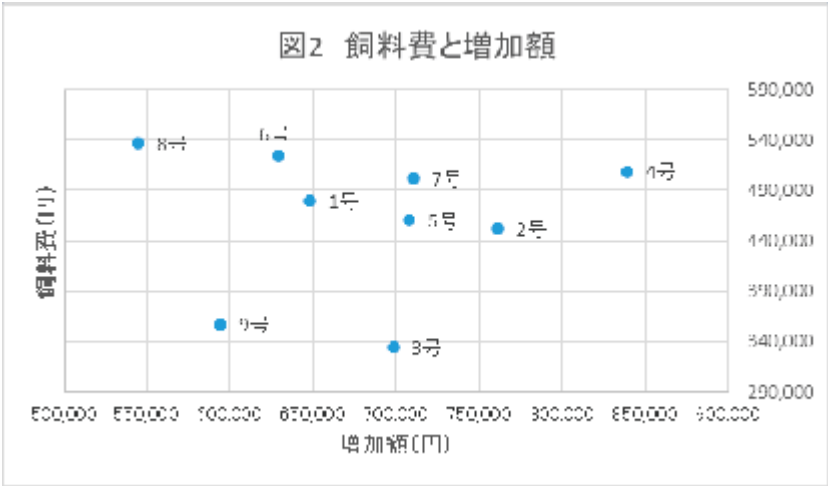


図3 販売価格と増加額

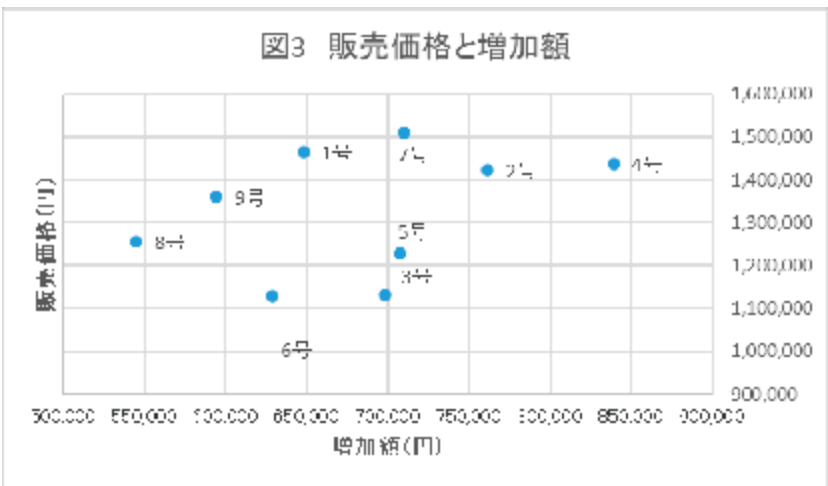
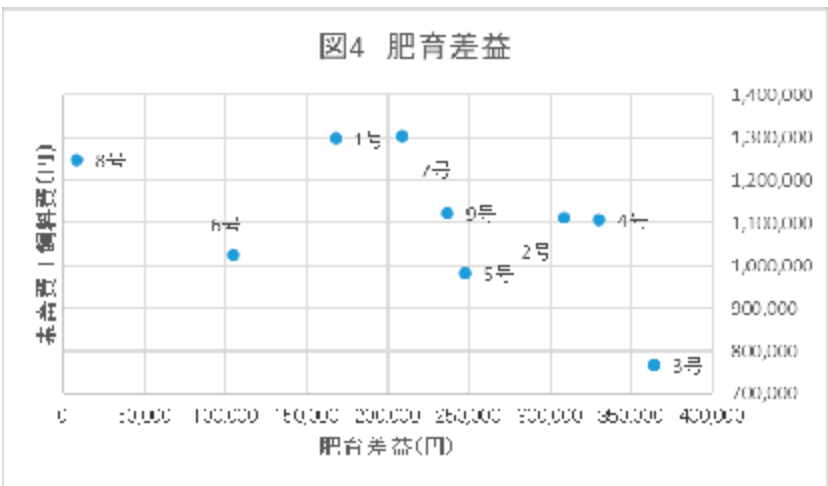


図4 肥育差益



①増加額が八三万円／頭と最も高い
四号は飼料費は高め(図2)だが
素牛価格を抑え(図1)販売価格
が高い(図3)。
②増加額が五四万円／頭と低い八号
は飼料費が高く(図2)素牛価格
も高く(図1)販売価格が低い(図
3)。
③一号は販売価格が高く(図3)飼
料費も抑えているが(図2)素牛
価格が最も高いため(図1)増加
額が六五万円／頭に留まっている。

4. 支援指導の方向と対策
生産費の三割以上を占める畜畜費
の低減対策に取り組む事例がコンサ
ル事例の中でもみられ、肥育経営に
おいて繁殖部門を導入している。
繁殖一貫に取り組む経営では自家
産牛は出荷まで八〇〇九〇万円程度
で仕上がっている。一方、黒毛肥育
専門の経営では現在でも八〇万円前
後の素牛を導入しているため出荷時
の生産原価は一二〇万〇一三〇万円
となる。ウクライナ情勢など先の見

えない状況で今後も消費低迷は続く
ことが予測され枝肉相場は期待でき
ないことから、県外からの導入だけ
では経営維持が困難な状況が続いて
いる。
全国平均では素牛価格が下がって
いるが、高付加価値販売(ブランド化)
を維持するために優良肥育素牛を導入
してきた本県においては依然として
子牛市場で高い素牛を導入してお
り、畜畜費低減のためには一貫経営
か受精卵移植を活用したスモールの

導入(県内での地域一貫)にも取り
組むことが今後の生き残り対策とい
える。
素牛供給基盤の強化に受精卵移植
を活用した肥育経営と酪農経営の連
携は不可欠で、同時にキャトルセン
ター(CS)による飼養管理の受託
など地域支援体制を強化することも
喫緊の課題である。
(畜産会 倉迫)

【酪農部門】

令和六年度畜産経営技術高度化促進事業において、酪農部門では経営診断に基づく改善指導四戸、生産技術指導三戸、フォローアップ指導四戸の計一一戸について経営指導を実施した。

今回は経営数値が明らかで比較可能な四戸の農家について、令和五年度実績を述べる。診断農家の経営成績は表1・表2のとおりである。

●診断農家の概況

今回調査した四戸の平均飼養頭数は三四・五頭で、県平均の三三・八頭より若干多い数値となったが前年度平均の三七・二頭から二・六頭減少している。また、四戸すべての経営で自給飼料生産を行っており、飼料耕地面積は平均三六六・三aで作付延べ面積は平均六八二・五a、圃場利用率は平均一・八回だった。飼料価格の高騰から、自給飼料の増産が推奨される中、本県では都市化や狭い農地、高齢化による労働力不足等により作付面積は減少傾向である。事例農家の中には、稲わらの収穫や水田の裏作でイタリアンライグラスの生産をし、収量を増やすなど工夫を凝らしている経営も見られた。

経産牛一頭当りの平均産乳量は、七、三三七・三kgで前年平均の七、九九〇・七kgから六一三kgほど減少し

た。経営個々では四、八三七～一〇、二七四kgの範囲となり、最小と最大の間で五、四三七kgもの差が見られた。乳質は乳脂肪率が四・一二％、無脂乳固形分率は八・八七％で乳脂肪率は全ての農家で四％を超えていた。

繁殖については、平均種付け回数が二・二回、平均分娩間隔が一六六ヶ月と芳しくない結果であった。適切な分娩間隔は生涯の平均乳量が高く維持できる。飼養頭数の拡大が難しい本県の酪農では、搾乳頭数を最大化し平均乳量を上げていくことが重要である。そのため長期不受胎牛の治療や更新、発情の早期発見等、繁殖管理にはより一層の努力が求められる。

経産牛一頭当たりの所得は一四〇、六二七円で、昨年平均の一〇五、七二〇円から三四、九〇七円の増となった。乳価に関しては令和四年十一月以降に段階的な引上げがあったため、牛乳販売収入が増加している(前年度一、〇二五万円から一、〇四五万円)。また、令和五年度は、物価高騰対策等の事業に係る助成金や補填金の交付があり、所得が上がる一因となっている。

一方で、令和五年度は昨年度から続いているウクライナ情勢や円安等の影響もあり、配合飼料価格や輸入乾牧草価格が高止まりしている。そ

のため、乳飼比は三戸の農家で六〇％を超えており、平均で六四・五％と購入飼料費が生産費に占める割合は高く厳しい状況が続いている。

本県の酪農経営の情勢は、戸数、乳牛頭数ともに減少が続いている(令和七年六月現在の酪農家戸数は九一件)。これには、都市化、後継者不足、生産資材の高騰による経費の増大、牛房稼働率の減少等が経営条件の悪化要因として挙げられる。今後も酪農経営を持続させるために、第三者継承等による新たな担い手の確保、人員不足を補うためAIやIoT等の先端技術の活用は重要である。他にも出前授業等を実施し、地域住民の理解を深めていくことも都市で酪農を続ける上で大切な活動だと考える。(畜産会 藤田)

地方競馬の収益金は畜産振興に役立てられています。

川崎競馬開催日

8月 4日(月)～8月 8日(金)ナイター
8月21日(木)～8月22日(金)ナイター
8月25日(月)～8月26日(火)ナイター
9月 8日(月)～9月12日(金)ナイター

広告

国産の牛乳、お肉、卵を食べてまもう

畜産物を生産するためのコストが上昇しています。
皆様に国産の畜産物を食べていただくことが生産者の応援に繋がります。

公益社団法人
中央畜産会
TEL.03-6206-0840

東京都千代田区外神田2-16-2 第2ディーアイシービル9F

全国の畜産会組織は地方競馬の売上の一部を活用して、日本の畜産振興に取り組んでいます。

表 1. 酪農診断農家の経営概況

項 目		最 小	最 大	平 均	前年平均
経産牛平均飼養頭数	頭	23.5	55.0	34.5	37.1
育成牛平均飼養頭数	頭	11.0	24.0	17.5	18.4
飼養牛中経産牛比率	%	49.5	74.8	65.3	64.3
労働力員数	人	1.4	4.1	2.2	2.8
雇用労働力依存率	%	0.0	54.5	26.2	19.2
経産牛1頭当り労働時間	h	111.3	162.9	133.1	173.1
労働1人当り経産牛飼養頭数	頭	13.5	19.8	16.8	13.4
飼料耕地面積	a	165.0	500.0	366.3	353.8
飼料作物作付延面積	a	300.0	1,500.0	682.5	677.5
圃場利用率	回	1.0	3.0	1.8	1.8
経産牛1頭当り飼料作物作付延面積	a	7.8	43.5	21.1	21.7
年間総生産乳量	t	113.7	354.4	253.3	286.0
経産牛年間1頭当り産乳量	Kg	4,837	10,274	7,377.3	7,990.7
経産牛1日1頭当り産乳量	Kg	13.3	28.1	20.2	21.9
平均乳脂率	%	4.0	4.4	4.12	4.04
平均無脂乳固形分率	%	8.77	9.08	8.87	8.84
平均乳価	円	138.4	145.4	141.2	128.2
期末平均産次	産	2.0	2.6	2.3	2.5
平均種付回数	回	2.0	2.5	2.1	2.4
平均分娩間隔	月	13.8	20.6	16.6	15.1
子牛・育成牛平均販売価格	円	50,250.0	257,809.0	162,997.8	165,720.0
成牛1日1頭当り購入飼料費(育成牛含む)	円	1,233.7	2,373.6	1,813.8	1,807.0
牛乳100Kg当り購入飼料費	円	8,433.0	9,844.6	9,096.7	8,181.7
乳飼比(育成含む)	%	58.0	71.1	64.5	63.8
労働1人当り産乳量	t	82.9	203.1	127.1	106.7
家族労働力1人当り所得	千円	△ 2,075	5,895.4	3,787.6	1,999.4
経産牛1頭当り生産原価	円	878,065.6	1,324,151.2	1,093,931.6	1006644.2
〃 (家族労働費除く)	円	787,883.7	1,271,977.3	981,644.8	859,032.9
経産牛1頭当り所得	円	△ 120,417	348,362.9	140,627.0	105,720.1
牛乳100kg当り生産原価	円	12,888.9	22,478.8	15,700.2	12,981.0
〃 (家族労働費除く)	円	11,331.6	19,311.5	13,949.4	10,919.4
牛乳100kg当り所得	円	△ 2,490	4,232.5	1,560.7	1,150.7
所得率	%	△ 15.6	26.6	9.8	7.5

表2. 酪農診断農家の収益性（経産牛1頭当り、単位：円）

項 目		1号	2号	3号	4号	最 小	最 大	平 均	前年平均		
売上高	牛乳販売収入	1,493,680	853,624	1,153,244	680,883	680,883	1,493,680	1,045,358	1,025,993		
	子牛育成牛販売収入	186,127	75,967	69,586	25,122	25,122	186,127	89,201	134,767		
	その他売上	7,304	49,353	87,434	63,566	7,304	87,434	51,914	39,979		
	計	1,687,112	978,945	1,310,263	769,571	769,571	1,687,112	1,186,473	1,200,739		
売上原価	期首育成牛評価額	251,912	91,195	89,530	349,362	89,530	349,362	195,500	191,655		
	生産費用	種付料	34,597	26,824	11,800	6,202	6,202	34,597	19,856	16,310	
		素畜費	0	2,727	7,713	18,331	0	18,331	7,193	23,172	
		購入飼料費	866,369	607,225	724,232	450,309	450,309	866,369	662,034	659,564	
		自給飼料資材費	18,248	11,814	16,068	1,809	1,809	18,248	11,985	24,146	
		敷料費	2,551	0	2,400	0	0	2,551	1,238	1,542	
		労働費	家族労働費	52,174	90,182	153,600	153,191	52,174	153,600	112,287	147,611
			雇用労働費	55,891	81,853	0	26,706	0	81,853	41,113	33,416
			計	108,065	172,035	153,600	179,898	108,065	179,898	153,399	181,027
		診療・医療品費	73,092	31,398	130,468	72,446	31,398	130,468	76,851	61,132	
		電力・水道費	47,861	27,906	47,204	67,797	27,906	67,797	47,692	53,398	
	燃料費	58,577	18,370	23,534	36,268	18,370	58,577	34,187	20,721		
	償却費	建物・構築物	48,034	49,079	0	6,016	0	49,079	25,782	18,195	
		機器具・車両	44,314	15,858	53,861	54,301	15,858	54,301	42,083	42,580	
		乳牛	129,731	61,353	60,721	52,961	52,961	129,731	76,191	66,143	
		計	222,078	126,290	114,582	113,278	113,278	222,078	144,057	126,918	
	修繕費	60,900	22,933	19,645	35,112	19,645	60,900	34,648	57,708		
	小農具費	55,453	0	144	13,372	0	55,453	17,242	7,136		
	消耗諸材料費	94,338	2,668	7,423	3,207	2,668	94,338	26,909	56,459		
	預託料・賃料料金	25,678	0	2,711	44,913	0	44,913	18,326	3,625		
	当期生産費用合計	1,667,807	1,050,191	1,261,523	1,042,944	1,042,944	1,667,807	1,255,616	1,292,858		
	期中経産牛振替額	291,314	32,909	53,080	102,233	32,909	291,314	119,884	84,849		
	期末育成牛評価額	110,822	105,091	54,680	114,148	54,680	114,148	96,185	218,274		
	売上原価	1,517,583	1,003,386	1,243,294	1,175,924	1,003,386	1,517,583	1,235,047	1,181,391		
	生産原価		1,324,151	878,066	1,086,274	1,087,236	878,066	1,324,151	1,093,932	1,006,644	
	生産原価(家族労働費除く)		1,271,977	787,884	932,674	934,044	787,884	1,271,977	981,645	859,033	
	売上総利益		169,529	△ 24,441	66,970	△ 406,353	△ 406,353	169,529	△ 48,574	19,349	
	一般管理費	販売経費	82,316	76,351	126,197	60,437	60,437	126,197	86,325	97,296	
		保険料	71,138	23,554	20,377	52,077	20,377	71,138	41,787	36,685	
		租税公課・諸負担	238	20,876	39,178	39,088	238	39,178	24,845	25,213	
		事務費その他	18,586	19,083	565	0	0	19,083	9,559	6,720	
		計	172,277	139,864	186,318	151,602	139,864	186,318	162,515	165,915	
	営業利益		△ 2,749	△ 164,305	△ 119,348	△ 557,955	△ 557,955	△ 2,749	△ 211,089	△ 146,566	
	営業外収益	受取利息	1	0	0	0	0	1	0	0	
		奨励金・補填金	79,176	274,302	329,105	269,448	79,176	329,105	238,008	82,328	
		成牛処分益	19,634	31,081	19,903	16,333	16,333	31,081	21,738	23,650	
その他		68,586	25,658	8,865	8,722	8,722	68,586	27,958	37,138		
計		167,398	331,040	357,873	294,503	167,398	357,873	287,704	143,116		
営業外支出	支払利息	543	1,806	575	107	107	1,806	758	460		
	支払地代	69,565	31,278	8,400	0	0	69,565	27,311	28,393		
	成牛処分損	532	0	32,299	0	0	32,299	8,208	23,244		
	その他	3,574	31,879	2,488	10,050	2,488	31,879	11,998	6,519		
	計	74,214	64,964	43,762	10,157	10,157	74,214	48,274	63,799		
経常利益		90,435	101,771	194,763	△ 273,608	△ 273,608	194,763	28,340	△ 67,249		
特別利益		0	0	0	0	0	0	0	25,358		
特別損失		0	0	0	0	0	0	0	0		
当期純利益		90,435	101,771	194,763	△ 273,608	△ 273,608	194,763	28,340	△ 41,891		
経常所得		142,609	191,953	348,363	△ 120,417	△ 120,417	348,363	140,627	80,362		
当期純所得		142,609	191,953	348,363	△ 120,417	△ 120,417	348,363	140,627	105,720		

「わたしの朝ごはん」

みなさんは朝ごはんに何を食べていますか？わたしは慌ただしい朝、グラノーラに牛乳をかけて食べています。さらさらと食べることができ、食物繊維やビタミンなどの栄養素をバランスよく摂ることができ、のどとても重宝しています。

グラノーラにはオーツ麦などの押し麦や小麦、玄米、とうもろこしなどの穀物などが含まれており、牛などの家畜が食べている飼料と同じ原料だなぁ、と大好きな牛に思いを馳せながら噛みしめて食べています。

そんな家畜の飼料に関して、令和6年度に牛海綿状脳症（BSE）に係る飼料規制の見直しがありました。

BSEは牛の病気のひとつで、BSEプリオンと呼ばれる病原体に牛が感染し

家保だより

場合、牛の脳の組織がスポンジ状になり、異常行動などを示し死亡する病気です。かつてBSEに感染した牛の脳や脊髄などを原料とした飼料を他の牛に与えたことが原因で、英国などを中心にBSEの感染が広がり、日本でも平成13年9月に初めて確認されてから、平成21年1月までの間に36頭の感染牛が発見されました。しかし、世界のBSE発生数は1992年の約3万7千頭をピークに2024年は1頭へと激減し、日本においても2003年以降に出生した牛からはBSEの発生報告はされていません。

日本のBSE対策として、国内で初めてBSEが確認されたあと、反すう動物（牛・めん羊・山羊）由来の肉骨粉等を含む動物由来たん白質の飼料利用が禁止されました。その後段階的に飼

料規制の見直しが行われ、国内のBSE発生リスク低下等を踏まえ、令和6年10月に反すう動物由来肉骨粉等の鶏・豚等用飼料への利用が再開されました。

しかし依然として、反すう動物用飼料には反すう動物由来の肉骨粉等を含み動物由来たん白質の飼料は利用できません。安全な畜産物を安定的に供給するためには、生産段階において安全な飼料を与えることが重要です。反すう動物と一緒に鶏や豚などを飼養されている方は、反すう動物用飼料に鶏・豚等場所や使用する器具を確実に分離するなど、改めて飼料の管理についてご確認をお願いします。

明日からも朝ごはんをしっかり食べて、健康でパワフルな一日にしましょう！

（県家畜保健衛生所 篠澤 瑠里）

姓も血筋も違っても

育てる親子の絆は強し

選挙が近づく度に馬の鼻面に人參をぶら下げるように現金給付や減税等のバラマキ政策合戦が激しくなり、同性婚やLGBTQへの理解、選択的夫婦別姓等は論議の外に置かれ霞んでしまったよう

新むらすめ

二年も前の小欄に乳牛の改良を早めるための「腹貸し事業」と同じようなことがタイ

等の一部の国では人間の「代理出産」として横行していることを書きましたが、卵巣はあるが胎児を宿す子宮の無い女性は子供を持つ（体内に宿し、育て、産む）ことが出来ない、他

た夫婦の熟年離婚が全離婚組数の四

分の一組もあるとのこと。離婚した女性

如何なものか。

出産も選択肢の一つのこと。家畜＝乳牛では腹貸し事業で乳牛の能力向上に功を奏しましたがヒトを産み育てるのに同じようなことが許されるのでしょうか？乳牛ならば二八〇日、ヒトは二六六日間お腹の中で愛し育てた子を横取りして、母の乳房を含ませることなく、貧困女性の搾取にもつながることをビジネスとして放置してよいのか？

少子高齢化の進む今日の日本だからこそ、目先の票稼ぎで節税や現金給付だけを語らないで、夫婦別姓や性の諸問題についてご討議頂くことを切にお願い申し上げます。

（忠九朗）

（二社）神奈川県畜産会第71回 定時社員総会開催される

第71回の県畜産会定時社員総会が6月25日（水）、産業貿易センタービルB102会議室で開催され、令和6年度決算の承認について、令和7年度会費及び納入方法の承認について、役員報酬の承認について及び役員補選選任の承認についての4議案が慎重に審議された結果、全て承認されました。また、報告事項として、令和6年度事業報告、令和7年度事業計画及び収支予算が報告されました。今回の役員補選により新たに選任された役員は次のとおりです。

理事 白井 欽一（養豚協会）
理事 大矢 和人（厚木市農協）

議案審議の後、来賓を代表し、県環境農政局 井上農水産部長、公益社団法人中央畜産会 月井事務局長から御祝辞をいただき盛会裏のうち総会を終りました。

（総務部）

